

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第4860348号
(P4860348)

(45) 発行日 平成24年1月25日(2012.1.25)

(24) 登録日 平成23年11月11日(2011.11.11)

(51) Int.Cl.

F 1

E O 4 G 21/28 (2006.01)

E O 4 G 21/28

A

請求項の数 4 (全 19 頁)

(21) 出願番号	特願2006-140852 (P2006-140852)	(73) 特許権者	000183428
(22) 出願日	平成18年5月19日(2006.5.19)		住友林業株式会社
(65) 公開番号	特開2007-309024 (P2007-309024A)		東京都千代田区大手町一丁目3番2号
(43) 公開日	平成19年11月29日(2007.11.29)	(74) 代理人	100077241
審査請求日	平成21年5月7日(2009.5.7)		弁理士 桑原 稔
		(74) 代理人	100098202
			弁理士 中村 信彦
		(72) 発明者	森島 宏和
			東京都千代田区丸の内一丁目8番1号 住友林業株式会社内
		審査官	五十幡 直子

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 バルコニー養生シート

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

バルコニーの上方における建築物の外壁側に上端縁部を取り付けられてバルコニーを覆うように用いられる矩形をなすバルコニー養生シートであって、

この養生シートにおける両側部が、該養生シートの上端縁に平行な線分に沿って分離された上側シート部と下側シート部ととされており、

しかも、この互いに隣り合う上側シート部と下側シート部とがスライドファスナーの開け閉めによって分離され、又は、接続され得るようにしてあり、

かつ、この養生シートにおける外周縁部と、前記スライドファスナーの開け閉めによって接続、分離される前記上側シート部の下縁端部分と、前記下側シート部の上縁端部分とに所定間隔毎に取付手段を備えており、

前記バルコニーにおける外壁面に平行な手すり用起立部に対応する前記養生シートの上端縁部を前記バルコニーの上方の外壁側に取り付けると共に該バルコニーを覆うように該養生シートの下端縁部を前記手すり用起立部の下部側に留め付けるように張り込み得ると共に、

前記スライドファスナーの開きだしにより前記上側シート部から分離された前記下側シート部で前記バルコニーの両側にある前記外壁面に直交する向きの手すり用起立部を外側から覆い、かつ、前記外壁側と前記外壁面に平行な前記手すり用起立部との間に張り込まれるシート部から下方に垂らされる前記上側シート部の上端縁部を前記外壁側に留めつけると共に該上側シート部で前記外壁面に直交する向きの前記手すり用起立部上を塞ぐよう

10

20

に該上側シート部を下方に引き絞るようにして折り重ね状態に前記バルコニーや前記外壁等の建築物側に前記取付手段で留め付け得るようにしてあることを特徴とするバルコニー養生シート。

【請求項 2】

前記養生シートが複数枚のシートからなり、一方のシートの側端縁と他方のシートの側端縁に備えられるスライドファスナーの開け閉めによって、当該シートを分離し、又は、接続し得るようにしてあることを特徴とする請求項 1 に記載のバルコニー養生シート。

【請求項 3】

前記養生シートが透明シート部を備えていることを特徴とする請求項 1 又は請求項 2 に記載のバルコニー養生シート。

10

【請求項 4】

前記取付手段が、養生シートの周縁部に備えられている孔に挿通される紐と、この孔の一方側にある紐端に備えられている引っ掛け具と、前記孔の他方側にある紐部分に該孔より大きくかつ該紐を挿通可能かつ保持可能なコードロックを備えていることを特徴とする請求項 1、請求項 2 又は請求項 3 に記載のバルコニー養生シート。

【発明の詳細な説明】

【技術分野】

【0001】

この発明は、バルコニー床の防水施工等に際して張設されるバルコニーの養生シートの改良に関する。

20

【背景技術】

【0002】

バルコニーは、外壁面から張り出し状態に備えられていることから雨風等の自然環境に直接晒される構造物であることから、耐候性や十分な雨仕舞い処理等、その仕上げ施工にバルコニー特有の条件が求められることがある。

【0003】

しかしながら、バルコニーは、通例、建築物本体部分に対して、大きく外側に張り出された構造をなしており、例えば、外壁仕上げに伴う養生のためのシート掛けでは、バルコニーを都合よく覆うには難があり、バルコニーの防水施工等に際して防水処理面に対して雨水が侵入する等の不具合を生じたり、また、当該養生シート内における作業空間がバルコニーの仕上げ施工に充分でない等の不具合があった。

30

【0004】

また、バルコニーの仕上げ処理と外壁の仕上げ処理等は、一連の手順でなされる必要があり、バルコニー床の防水等の仕上げに都合のよい気象条件を待っている間は、各工程が順次に狂い、作業日程を組むことができなくなる。

【0005】

複雑に入り組む建築物の仕上げ処理にあっては、多くの熟練者を、各現場の進捗に合わせて、確実に手配する必要がある、作業日程通りにバルコニーの防水処理等の仕上げ処理をする必要があった。

【0006】

40

かかる点から、建造物の築造に際して、前もって、全天候タイプの作業空間を各種シートで構成したり、テントによって構成するようにしていた（例えば、特許文献 1）。

【0007】

【特許文献 1】特開平 7 - 2 4 7 6 9 7 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0008】

このように建築現場に建造物の建築作業空間を構成することは、建築物の建築工程管理や、品質管理等において、多くの効果が認められるものの、個々の建築現場毎に、かかる建築作業空間を前もって構成することは現実的でなく、期待される効果に対して建築コス

50

トが極端に高くなり、また、施工期間も長くなる等の不具合がある。

【 0 0 0 9 】

この発明は、かかるバルコニーの構造的な特異性を考慮して、バルコニーにおける養生を確実にし、バルコニーの仕上げ施工に伴って作業工程に支障をもたらさないようにした養生シートを提供するものである。

【課題を解決するための手段】

【 0 0 1 0 】

この発明は、前記課題を解決するために、バルコニーの上方における建築物の外壁側に上端縁部を取り付けられてバルコニーを覆うように用いられる矩形をなすバルコニー養生シートであって、

この養生シートにおける両側部が、該養生シートの上端縁に平行な線分に沿って分離された上側シート部と下側シート部とされており、

しかも、この互いに隣り合う上側シート部と下側シート部とがスライドファスナーの開け閉めによって分離され、又は、接続され得るようにしてあり、

かつ、この養生シートにおける外周縁部と、前記スライドファスナーの開け閉めによって接続、分離される前記上側シート部の下縁端部分と、前記下側シート部の上縁端部分とに所定間隔毎に取付手段を備えており、

前記バルコニーにおける外壁面に平行な手すり用起立部に対応する前記養生シートの上端縁部を前記バルコニーの上方の外壁側に取り付けると共に該バルコニーを覆うように該養生シートの下端縁部を前記手すり用起立部の下部側に留め付けるように張り込み得ると共に、

前記スライドファスナーの開きだしにより前記上側シート部から分離された前記下側シート部で前記バルコニーの両側にある前記外壁面に直交する向きの手すり用起立部を外側から覆い、かつ、前記外壁側と前記外壁面に平行な前記手すり用起立部との間に張り込まれるシート部から下方に垂らされる前記上側シート部の上端縁部を前記外壁側に留めつけると共に該上側シート部で前記外壁面に直交する向きの前記手すり用起立部上を塞ぐように該上側シート部を下方に引き絞るようにして折り重ね状態に前記バルコニーや前記外壁等の建築物側に前記取付手段で留め付け得るようにしてあることを特徴とするバルコニー養生シートとしてある。

【 0 0 1 1 】

このように構成されるバルコニー養生シートは、矩形の極めてシンプルな構成とされ、これを安価に提供し得ると共に、搬入、組み付け、取り外し、折り畳み、搬出、管理等が、いたって容易とされる。

【 0 0 1 2 】

また、このように構成される養生シートにあっては、複数種の規格寸法の養生シートを用意する必要がなく、スライドファスナーの開閉幅によって、各種寸法のバルコニーに対して十分なフィット感をもって組み付けることができ、養生に都合のよいシートの張り空間を構成することができる。

【 0 0 1 3 】

また、このように構成される養生シートにあっては、スライドファスナーを開き出すことによって、シートの両側部に、互いに分離される上側シート部と下側シート部とを作り出し、この各シート部を、他方シート部に影響されることなく張設したり、折り込み状態に絞り込むことができ、シートを構造物に対して、手軽に、よりよくフィットするように処理することができる。また、建築中の建築物の外壁材、庇材、軒材や、バルコニーの構成材等に対して、別段に取付手段を用意することなく、バルコニーの養生に都合のよい形態に当該養生シートの取り付けをなすことができる。

【 0 0 1 4 】

ついで、前記構成に係るバルコニー養生シートにあって、前記養生シートを複数枚のシートで構成し、一方のシートの側端縁と他方のシートの側端縁に備えられるスライドファスナーの開け閉めによって、当該シートを分離し、又は、接続し得るように構成した養生

10

20

30

40

50

シートでは、前記特長に併せて、バルコニーの横幅寸法に合わせて、適宜シートを接続一体として、各バルコニーの横幅に都合よく適合する横幅を備えた養生シートを構成でき、バルコニーの大きさに合わせて個別に養生シートを用意する必要がない。

【0015】

更に、前記構成に係る養生シートにあって、前記養生シートが透明シート部を備えている構成としたバルコニー養生シートでは、前記特長に併せて、養生シートの張られたバルコニー内部における防水施工等の各種作業が容易にかつ快適になし得る養生空間を構成することができる。

【0017】

更に、前記構成に係る養生シートにあって、前記取付手段を、養生シートの周縁部に備えられている孔に挿通される紐と、この孔の一方側にある紐端に備えられている引っ掛け具と、前記孔の他方側にある紐部分に該孔より大きくかつ該紐を挿通可能かつ保持可能なコードロックを備えた構成とすることによって、前記特長に併せて、当該養生シートを、より円滑、かつ、確実に養生対象バルコニーに設けることができる。

【発明の効果】

【0018】

この発明に係るバルコニー養生シートは、矩形のシンプルな構成からなるシートを用いてバルコニーを都合よく覆うことができ、バルコニーにおける、例えば、防水処理等の各種作業時に要請される養生等に効果的に対応することができ、各種形態のバルコニーに対して都合よくフィットした状態に養生シートを張設けることが可能とされて確実な養生を、簡易な構成で、かつ、簡便な手段によってなし得ると共に、養生シートの張設時におけるばたつきが無く、かつ、養生シートの搬入、組み付け、取り外し、折り畳み、搬出及び保管を容易にすることができる。

【発明を実施するための最良の形態】

【0019】

以下、図1～図13にもとづいて、この発明を実施するための最良の形態に係るバルコニー養生シートについて説明する。

【0020】

なお、ここで図1は、当該発明を実施するための最良の形態に係る典型的な養生シートCを展開して、前側から見て示しており、図2では、この養生シートを建築物AのバルコニーB部分に装着した状態を、図3では、これを壁部分を断面して上方から見て、図4～図6は、かかる養生シートをバルコニーBを覆うように取り付けている各工程を斜め上方から見て、図7は、当該養生シートCを建築物Aに取り付ける典型的な取付手段20を正面側から見て示している。また、図8では、当該養生シートCの両側部Caにあって、上側シート部12aと下側シート部12bとに分離したり、接続させる手段であるスライドファスナー14を備えるシートの断面図を、図9では、当該養生シートCを建築物Aに備え付ける他の適用例を示している。

【0021】

また、図10では、当該養生シートCを他の形態からなるバルコニーBに取り付けた状態を壁部分を断面して上方から見て示している。

【0022】

更に、図11及び図12は、他の形態からなるバルコニーBに対する当該養生シートCの適用例を示しており、図11では、養生シートCを装備したバルコニーB部分を斜め上方から見て、更に、図12では壁部分を断面して、これを上方から見て示している。

【0023】

図13は、当該養生シートCの、更に、他の実施例を示すものであって、その展開された構成シートを分離して、要部を示している。

【0024】

この発明に係るバルコニー養生シートCは、バルコニーBの上方における建築物Aの外壁30側に上端縁部10dを取り付けられてバルコニーBを覆うように用いられる矩形を

10

20

30

40

50

なすバルコニー養生シートCであって、

この養生シートCにおける両側部Ca、Caが、その側縁端10f''から他方側端縁10f'に向けて上端縁10dに平行な線分に沿って分離された上側シート部12aと下側シート部12bとされており、

しかも、この互いに隣り合う上側シート部12aと下側シート部12bとがスライドファスナー14の開け閉めによって分離され、又は、接続され得るようにしてあり、

前記バルコニーBにおける外壁面30aに平行な手すり用起立部50に対応する前記養生シートCの上端縁部10dを該バルコニーBの上方の外壁30側に取り付けると共に該バルコニーBを覆うように該養生シートCの下端縁部10eを該手すり用起立部50の下部側50''に留め付けるように張り込み得ると共に、

前記スライドファスナー14の開きだしにより上側シート部12aから分離された下側シート部12bで、該バルコニーBの両側にある前記外壁面30aに直交する向きの手すり用起立部50を外側から覆い、かつ、前記外壁30側と外壁面30aに平行な手すり用起立部50との間に張り込まれるシート部10aから下方に垂らされる前記上側シート部12aで該手すり用起立部50上を塞ぐように折り重ね状態に該上側シート部12aを留め付け得るようにしてある。

【0025】

なお、ここで用いられる養生シートCは、前記構成を備えて、前記態様で用い得るものであれば、いかなる素材によって構成してあってもよく、単一素材からなるものであっても、また、複合素材からなるものであってもよい。また、透明、半透明、不透明等、いかなる性状のシートであってもよく、例えば、外部から透視し難いシート地であって、かつ、透光性を有するシート等によって構成することができる。かかる養生シートCは、例えば、建築現場において用いられている各種養生シートC、テント用生地、テント覆いとして用いられるタープ生地等を用いて構成することができる。

【0026】

なお、本明細書においてバルコニーBは、建築物Aの外壁30から張り出し状態に備えられる床を備えた構造物であって、所謂、ベランダと称されるものを含む概念である。

【0027】

また、この養生対象とされるバルコニーBは、前記養生シートCをもって覆い得る構成のものであれば、いかなる形態のバルコニーであっても、また、いかなる素材によって構成してあってもよく、例えば、外壁30から張り出し状態に備えられる平面視で矩形をなすバルコニーB、外壁30の出隅部分にあって、この出隅を巡るように平面視でL字状に屈曲するバルコニーB等、種々の形態のバルコニーを対象とすることができる。

【0028】

また、この養生シートCの張設されるバルコニー手すりは、バルコニー床40から起立されて手すり機能を備えるものであれば、フィン状のバルコニー手すりであっても、腰壁状のバルコニー手すりであっても、パネル状のバルコニー手すりであっても、さらには、これらの複合された各種形態のバルコニー手すりであってもよく、また、完成されたバルコニー手すりであっても、未完成の、所謂仕掛け状態にあるバルコニー手すりであってもよい。

【0029】

また、この養生シートCの取り付け対象物及び取付手段は、当該養生シートCを用いて対象バルコニーBを都合よく覆って、バルコニーBを各目的に対応した養生状態にし得るものであれば、いかなる取付対象物であっても、また、いかなる取付手段であってもよい。例えば、建築物Aにおける躯体構成手段、壁構成手段、小屋構成手段、庇構成手段、屋根構成手段、バルコニー構成手段、足場その他の作業用の各種構成手段、養生シート用の各種構造手段等の、当該シートを目的とする養生に都合のよい態様に取り付け得るものであれば、いかなるものであってもよく、また、これらの対象物に養生シートCを張り込むための取付手段は、かかる取付対象物に都合よくシートを目的とする養生を達成し得る態様に取り付け得るものであれば、いかなるものであってもよく、例えば、紐、チェーン

10

20

30

40

50

、フック、ヒートン等の各種の取付手段を単体で、又は、複数で用いることができる。

【 0 0 3 0 】

このように構成されるバルコニー養生シート C は、矩形の極めてシンプルな構成とされ、これを安価に提供し得ると共に、搬入、組み付け、取り外し、折り畳み、搬出、管理等が、いたって容易とされる。

【 0 0 3 1 】

また、このように構成される養生シート C にあっては、複数種の規格寸法の養生シート C を用意する必要がなく、スライドファスナー 1 4 の開閉幅によって、各種寸法のバルコニー B に対して十分なフィット感をもって組み付けることができ、養生に都合のよいシートの張り空間を構成することができる。

10

【 0 0 3 2 】

なお、ここでスライドファスナー 1 4 を開きだした際に、このスライドファスナー 1 4 の開きだし幅が、バルコニー B における壁面 3 0 a に直交している手すり用起立部 5 0 b の出寸法よりも広い場合、このスライドファスナー 1 4 で開き出された下側シート部 1 2 b を当該バルコニー B の外側面 B a に沿うように折り返して当該下側シート部 1 2 b を重ね合わせの状態にしてバルコニー B に適宜の取付手段 2 0 を用いて添装状態に取り付け、また、上側シート部 1 2 a は、必要に応じて、折返し状態にして、バルコニー B の手すり用起立部 5 0 b の上端 5 0 ' 上を塞ぐように折り畳み状態にして用いる。

【 0 0 3 3 】

また、このように構成される養生シート C にあっては、スライドファスナー 1 4 を開き出すことによって、養生シート C の両側部 C a 、C a に、互いに分離される上側シート部 1 2 a と下側シート部 1 2 b とを作り出し、この各シート部を、他方シート部に影響されることなく張設けたり、折り込み状態に絞り込むことができ、養生シート C を建築物 A に対して、手軽に、よりよくフィットするように処理することができる。

20

【 0 0 3 4 】

また、前記構成に係るバルコニー養生シート C にあって、前記養生シート C を複数枚のシート C 、C ... C で構成し、一方のシート C の側端縁 1 0 f ' と他方のシート C の側端縁 1 0 f ' に備えられるスライドファスナー 1 6 、1 7 の開け閉めによって、当該シート C を分離し、又は、接続し得るように養生シート C を構成することによって、バルコニー B の横幅寸法に合わせて、適宜シート C を接続一体として、各バルコニー B の横幅に都合よく適合する横幅を備えた養生シート C を構成することができ、バルコニー B の大きさに合わせて個々に養生シート C を用意する必要がない。

30

【 0 0 3 5 】

また、前記構成に係る養生シート C にあって、前記養生シート C が透明シート部 1 5 を備えている構成としたバルコニー養生シート C では、養生シート C の張られたバルコニー内部における防水施工等の各種作業が容易にかつ快適になし得る養生空間を構成することができる。

【 0 0 3 6 】

また、前記構成に係る養生シート C にあって、前記養生シート C が周縁部に当該養生シート C の取付手段 2 0 を備えているバルコニー養生シート C では、当該養生シート C を建築中の建築物 A の壁材、庇材、軒材や、バルコニーの構成材等に対して、別段に取付手段を用意することなく、バルコニー B の養生に都合のよい形態に当該養生シート C の取り付けをなすことができる。

40

【 0 0 3 7 】

また、前記構成に係る養生シート C にあって、前記取付手段 2 0 を、養生シート C の周縁部に備えられている孔 1 3 に挿通される紐 2 1 と、この孔 1 3 の一方側にある紐 2 1 端に備えられている引っ掛け具 2 2 と、前記孔 1 3 の他方側にある紐 2 1 部分に該孔 1 3 より大きくかつ該紐 2 1 を挿通可能かつ保持可能なコードロック 2 3 を備えた構成とすることによって、当該養生シート C を、より円滑、かつ、確実に養生対象バルコニー B に張設けることができる。

50

【 0 0 3 8 】

ついで、図示例に係るバルコニー養生シート C について、更に具体的に説明する。

【 0 0 3 9 】

この図示例に係るバルコニー養生シート C は、バルコニー B の上方における建築物 A の外壁 3 0 側に上端縁部 1 0 d を取り付けられてバルコニー B を覆うように用いられる矩形をなすバルコニー養生シート C であって、

この養生シート C における両側部 C a、C a が、その側縁端 1 0 f " から他方側端縁 1 0 f ' に向けて上端縁 1 0 d ' に平行な線分に沿って分離された上側シート部 1 2 a と下側シート部 1 2 b とされており、

しかも、この互いに隣り合う上側シート部 1 2 a と下側シート部 1 2 b とがスライドファスナー 1 4 の開け閉めによって分離され、又は、接続され得るようにしてあり、

前記バルコニー B における外壁面 3 0 a に平行な手すり用起立部 5 0 a に対応する前記養生シート C の上端縁部 1 0 d を該バルコニー B の上方の外壁 3 0 側に取り付けると共に該バルコニー B を覆うように該養生シート C の下端縁部 1 0 e を該手すり用起立部 5 0 の下部側 5 0 " に留め付けるように張り込み得ると共に、

前記スライドファスナー 1 4 の開きだしにより上側シート部 1 2 a から分離された下側シート部 1 2 b で、該バルコニー B の両側にある前記外壁面 3 0 a に直交する向きの手すり用起立部 5 0 b を外側から覆い、かつ、前記外壁 3 0 側と外壁面 3 0 a に平行な手すり用起立部 5 0 a との間に張り込まれるシート部 1 0 a から下方に垂らされる前記上側シート部 1 2 a で該手すり用起立部 5 0 b 上を塞ぐように折り重ね状態に該上側シート部 1 2 a を留め付け得るように構成してある。

【 0 0 4 0 】

ここで用いられる養生シート C を、更に、具体的に説明する。この養生シート C は、典型的には一枚の矩形シート 1 0 によって構成してある（図 1 参照）。この矩形シート 1 0 は、バルコニー B の養生用に張設された際に、風等によって裂け出したりすることのない強靱なシート材によって構成してあり、典型的には、張設された当該矩形シート 1 0 の構成する内側空間における施工作業に都合のよい採光条件を備えたものとして、例えば、透光性を有するシート材によって構成される。

【 0 0 4 1 】

この矩形シート 1 0 は、バルコニー B の両側にあつて、外壁 3 0 から外方に向けて持ち出されるバルコニー B における外壁面 3 0 a に直交する向きにある手すり用起立部 5 0 b、5 0 b の側を覆う手段として用いられる側部シート部 1 2 を、その両側部 C a、C a に備えており、この両側部 C a、C a 間にあるベースシート部 1 1 を建築物 A の外壁 3 0 側と外壁面 3 0 a に平行な手すり用起立部 5 0 a との間に張り込まれる張り込みシート部 1 0 a と、該手すり用起立部 5 0 a の外面を覆う添装シート部 1 0 b とされる上側ベースシート部 1 1 a 及び下側ベースシート部 1 1 b として備えている。

【 0 0 4 2 】

かかる矩形シート 1 0 は、例えば、当該矩形シート 1 0 における横幅を、9 1 0 mm に所定の自然数を乗じた寸法となるように構成する。例えば、この矩形シート 1 0 における両側部 C a、C a にある側部シート部 1 2 を 9 1 0 mm × 2 の横幅寸法に構成し、ベースシート部 1 1 を 9 1 0 mm × 4 の横幅寸法を備える要に構成することで、各施工現場におけるバルコニー B に都合よくフィットする養生シート C を構成することができる。

【 0 0 4 3 】

例えば、図 1 に示される養生シート C を図 3 に示されるバルコニー B を覆う手段として用いる場合、この養生シート C における両側部 C a、C a にあるスライドファスナー 1 4、1 4 を下止 1 4 b まで開きだし、かつ、分離された上側シート部 1 2 a と下側シート部 1 2 b とを、図 4 に示されるように、それぞれ二重になるように裏側に折返し重ね合わせて、ベースシート部 1 1 を手すり用起立部 5 0 a に、この折り重ねた下側シート部 1 2 b を手すり用起立部 5 0 b にそれぞれフィットするように被装して用いる。また、図 1 に示される養生シート C を図 7 に示されるバルコニー B、又は、図 1 1 及び図 1 2 に示される

バルコニー B を覆う手段として用いる場合には、この養生シート C における両側部 C a、C a にあるスライドファスナー 1 4、1 4 を、その開き出し幅の半分相当を開きだし、かつ、これによって分離された下側シート部 1 2 b を手すり用起立部 5 0 b の外側面に、また、この開きだしスライドファスナー 1 4、1 4 間にあるシート部分を手すり用起立部 5 0 a の外側面にそれぞれフィットするように被装させて用いる。

【 0 0 4 4 】

かかる矩形シート 1 0 は、その両側部 C a、C a 部分を、その側縁端 1 0 f " から他方の側縁端 1 0 f ' に向けて当該矩形シート 1 0 における上端縁 1 0 d ' に平行な線分に沿って分離された上側シート部 1 2 a と下側シート部 1 2 b としてあり、この上側シート部 1 2 a の下端縁 1 2 a ' と下側シート部 1 2 b の上端縁 1 2 b ' とにスライドファスナー 1 4 を構成する互いに噛み合うエレメントを備えるテープを設け、このスライドファスナー 1 4 の開け閉めによって、当該下側シート部 1 2 b と上側シート部 1 2 a とを一連に連続した状態にしたり、分離して各別に取り扱え得るようにしてあり、当該矩形シート 1 0 における側縁端 1 0 f " 側を上止 1 4 b とし、ベースシート部 1 1 側に下止 1 4 a が位置づけられるように設けてあり、しかも、この矩形シート 1 0 における表側、すなわち、当該矩形シート 1 0 を用いてバルコニー B の養生をなした際に、外側になる面に当該スライドファスナー 1 4 を覆うカバー 1 4 c を備えた構成としてある。

【 0 0 4 5 】

かかる矩形シート 1 0 に備えられるスライドファスナー 1 4 は、前記張り込みシート部 1 0 a を構成する上側ベースシート部 1 1 a と、添装シート部 1 0 b を構成する下側ベースシート部 1 1 b との境界線上に位置づけられるように設けてあり、このベースシート部 1 1 の下側ベースシート部 1 1 b と、側部シート部 1 2 の下側シート部 1 2 b とが、一連に連続してバルコニー B の手すり用起立部 5 0 の外側面に添装されて、当該手すり用起立部 5 0 の外側面を覆うように張設し得る構成としてある。

【 0 0 4 6 】

かかる構成の矩形シート 1 0 にあって、その外周縁部と、前記スライドファスナー 1 4 の開け閉めによって接続、分離される上側シート部 1 2 a の下縁端 1 2 a ' 部分及び下側シート部 1 2 b の上縁端 1 2 b ' 部分に、所定間隔毎に取付手段 2 0 を設けてある。この取付手段 2 0 は、施工対象や施工方法等によって最適な取付手段 2 0 が当該矩形シート 1 0 に備えられる。

【 0 0 4 7 】

この図示例にあっては、当該取付手段 2 0 の典型例として紐 2 1 を用いた取付手段 2 0 を示してある。この図示例の取付手段 2 0 は、前記矩形シート 1 0 の前記外周縁部と前記下縁端 1 2 a ' 部分及び上縁端 1 2 b ' 部分とに設けた紐 2 1 の挿通用孔 1 3 としての鳩目孔 1 3 a と、この孔 1 3 に挿通されている紐 2 1 と、この挿通用孔 1 3 の一方側にある紐 2 1 に備えられている引っ掛け具 2 2 としてのなす環 2 2 a と、この孔 2 1 の他方側にある紐 2 1 に備えられている紐固定具としてのコードロック 2 3 とで構成してある。

【 0 0 4 8 】

かかる取付手段 2 0 にあっては、なす環 2 2 a を備える紐 2 1 を外壁 3 0 側にある引っ掛け対象物、例えば、木摺下地パネル 3 2 a 等の壁下地材 3 2、間柱、梁、軒垂木、架設足場材、シート架設材等の適宜の対象物を巡るように廻すと共に、なす環 2 2 a を該紐 2 1 に引っ掛けてループ部を構成し、ついで、前記コードロック 2 3 に挿通されている紐 2 1 を絞り、このコードロック 2 3 を孔 1 3 の周面部をなす矩形シート 1 0 面に押しつけるようにして、当該矩形シート 1 0 を引っ掛け対象物に対して必要間隔となるまで接近させて養生シート C を養生対象バルコニー B に都合のよい態様に張り込み得る構成としてある（図 7 参照）。

【 0 0 4 9 】

かかる紐 2 1 の締め込みに用いられる紐固定具は、いかなる構成のものであってもよく、この図示例では、典型的なコードロック 2 3 を示している。この図示例に係るコードロック 2 3 は、前記孔 1 3 より大きく当該孔 1 3 に引っ掛かる大きさであって、一端側が解

10

20

30

40

50

放されている外筒 2 3 a 内に付勢手段 2 3 c によって常時外方に突き出す向きに付勢された状態に摺動軸 2 3 b を嵌め入れてあり、この摺動軸 2 3 b を前記付勢に抗して外筒 2 3 a の内方に押し入れた際に、相互に連通状態とされる紐通孔 2 3 d を備えており、この紐通孔 2 3 d に挿通されている紐 2 1 は、通常、前記付勢で突き出し方向に押動されている摺動軸 2 3 b の孔 2 3 d と外筒 2 3 a の孔 2 3 d とのずれによって、その移動が阻止されており、この付勢に抗した当該摺動軸 2 3 b の押し込み操作によって当該阻止が解かれて、自由に移動し得る構成としてある。なお、この図示例に係るコードロック 2 3 にあっては、前記付勢手段 2 3 c の付勢によって摺動軸 2 3 b が外筒 2 3 a から抜け出さないように、外筒 2 3 a に引っ掛け孔を、摺動軸 2 3 b に当該孔に対して摺動軸 2 3 b が突き出し方向に移動した際に引っ掛かる弾性掛合片を設けてある。

10

【 0 0 5 0 】

また、この養生シート C を構成する矩形シート 1 0 に適宜位置に透明シート部 1 5 からなる透明窓 1 5 a が設けてあり、この養生シート C 内に適度の外光の取り込みと、情報の取り込みを可能として、当該養生シート C 内における各種の動作性を良好としている。

【 0 0 5 1 】

かかる養生シート C の取り付け用いられるバルコニー B は、前記記載の通り、いかなる態様のものであってもよく、この図示例にあっては、平面視で矩形、より具体的には長方形形状に構成されて建築物 A における外壁 3 0 から外方に持ち出し状態に備えられた構成としてある。

20

【 0 0 5 2 】

すなわち、外壁 3 0 に備えられている開口 3 3 の屋外側にあって床面を連続するように張り出し設けられているバルコニー床 4 0 と、このバルコニー床 4 0 の周縁部から起立するように当該バルコニー床 4 0 を囲むように備えられているバルコニー手すり用起立部 5 0 とを備えて柱 5 5 上に構成してある。

【 0 0 5 3 】

かかるバルコニー B に対する防水施工は、通例、バルコニー B や外壁 3 0 における仕上げ処理前に施され、その養生を待って、当該バルコニー B や外壁 3 0 の化粧仕上げを施すようにしてあり、この図示例に係るバルコニー B にあっても、当該バルコニー B の化粧仕上げ前の状態で、養生シートを張設して、バルコニー床 4 0 等における防水処理をなすようにしてある。

30

【 0 0 5 4 】

この結果、この図示例にあっては、バルコニー B を構成する手すり用起立部 5 0 が、笠木、手すりバー、腰壁化粧材等を備えていない状態で示されている。

【 0 0 5 5 】

この図示例に係るバルコニー B では、バルコニー床 4 0 の前端縁に沿って、外壁面 3 0 a に平行に備えられる手すり用起立部 5 0 a を備えていると共の、この手すり用起立部 5 0 a と外壁 3 0 との間に、当該外壁面 3 0 a に直交する向きに突き出す手すり用起立部 5 0 b、5 0 b を備え、この手すり用起立部 5 0 b - 5 0 a - 5 0 b を一連に連続するように設けてあって、平面視でコの字状をなすように当該手すり用起立部 5 0 を備えた構成としてある。

40

【 0 0 5 6 】

また、開口 3 3 を備えた外壁 3 0 は、柱 3 1 の外側に壁仕上げ用の木摺下地パネル 3 2 a を張り付け、開口 3 3 に開口枠 3 3 a を設け、下側にある開口枠 3 3 a にいたるバルコニー B の立ち上がり部分に壁パネル 3 2 b を、更に、その外側にボード材 3 2 c を添装状態に備え付けて仕上げてある。

【 0 0 5 7 】

また、バルコニー床 4 0 は、床パネル 4 1 上に勾配付断熱パネル 4 2 を、更に、この断熱パネル 4 2 上に防水シート 4 3 を張設けてある。また、手すり用起立部 5 0 には間柱 5 1 に笠木下地材 5 2 を取り付け、かつ、当該間柱 5 1 の外側面と内側面とに壁パネル 5 3 を添装状態に設けてあり、更に、バルコニー床 4 0 からの立ち上がり部分にボード材 5 4

50

を添装状態に設けてある。

【0058】

この図示例に係るバルコニーBは、当該バルコニーBにおける出寸法、すなわち、建築物Aの外壁面30aからの突き出し幅に対して、当該バルコニーBの横幅寸法、すなわち、外壁面30aに沿った向きの幅寸法が倍の幅となるように構成してある。

【0059】

かかるバルコニーBの養生に用いられる矩形シート10は、まず、この矩形シート10におけるベースシート部11における上端縁部10dを、前記手すり用起立部50aに向き合う外壁30の壁下地材32、この図示例にあっては、木摺下地パネル32aに対して平行に取り付ける。

10

【0060】

この矩形シート10の取り付けは、張設けられる養生シートCにおける張り込みシート部10aが所要の傾斜角を備え得るように、当該バルコニーBの上方にある外壁30の木摺下地パネル32aに紐21を回し込んで前方に引き出し、その引き出し端に備えられているなす環22aを当該紐21に引っ掛けるようにして、ループを作り出して取り付け、ついで、孔13から引き出されている紐21を引き絞って、コードロック23を養生シートCにおけるシート面に押しつけるようにして、当該養生シートCの上端縁10d'を前記木摺下地パネル32aに接近させた状態に留め付ける。

【0061】

このように上端縁部10dを外壁30の側に取り付けられた養生シートCでバルコニーBを覆うと共に、前記手すり用起立部50aの上端50'から外手すり用起立部50aの下部側50''に案内された当該養生シートCにおけるベースシート部11の下端縁部10eを前記取付手段20で当該バルコニーB等に必要なテンションを加えた状態で取り付けて、当該養生シートCにおけるベースシート部11の張り込みをなし、構成される養生シートCにおける張り込みシート部10aと添装シート部10bとを構成する。

20

【0062】

なお、前記養生シートCの張り込みにおいて、ベースシート部11における上側ベースシート部11aと下側ベースシート部11bとの境界線部分が前記手すり用起立部50aの上端50'に位置づけられるようにしてあり、この張り込み養生シートCにおける両側部Ca、Caに備えられているスライドファスナー14を下止14a位置まで開き出す。図1に示される養生シートCは、側部Caの幅寸法を図2～図6に示されるバルコニーBにおける出寸法、すなわち、手すり用起立部50bの出幅の倍幅に構成してあり、このスライドファスナー14を下止14aまで開けた状態で、上側シート部12aの側方に延びる先端側を裏側に折り返して二重にし、また、下側シート部12bの側方に延びる先端側を裏側に折り返して二重にし、この下側シート部12bを外壁面30aから直交するように突き出し備えられている手すり用起立部50bの外側の面に都合よく添装状態に取り付け、必要なテンションを生ずるように張設する。

30

【0063】

なお、この下側シート部12bの手すり用起立部50bに対する添装状態での取り付けは、前記下側ベースシート部11bに対する接続側を除く、当該下側シート部12bの周側部に備えられている取付手段20を用いて前記ベースシート部11の取り付けと同一手法によって行うことができる。

40

【0064】

なお、この下側シート部12bの取り付けに際して開き出されるスライドファスナー14の開き幅は、前記手すり用起立部50aと、これに連続される手すり用起立部50bとを、前記下側ベースシート部11bと前記下側シート部12bとで緩み無く覆い得るに都合のよい幅となるように調整して開き出される。

【0065】

なお、この養生シートCの張り付けに際して、養生対象バルコニーBに前記紐21を回し込み取り付け得る対象物が存在しない場合等にあつては、このバルコニーBの構成材に

50

対して、各種の取付手段、例えば、ヒートン 24 等の適宜の取付手段 20 を用意し、これに紐 21 を引っ掛けるようにしてあってもよい。

【0066】

ついで、前記張設シート部 10a から下方に垂れている上側シート部 12a を用いて、当該手すり用起立部 50b の上方を塞ぐように、この上側シート部 12a を適宜寄せ付けるように重ね合わせた折り重ねシート部 10c とし、これを、例えば、当該折り重ねシート部 10c の下端部を取付手段 20 でバルコニー B や外壁 30 に引っ張り状態にして留め付けて、張設シート部 10a から上側シート部 12a をテンションを掛けた状態で留め付ける。

【0067】

かかる上側シート 12a は、例えば、前記ベースシート部 11 における上端縁部 10d に連続している上側シート 12a の上端縁部 10d を（二重に折り返されたままの状態、又は、折り返すことなく一重の状態）、外壁面 30a に沿って垂下状態にし、この垂下状態にある上端縁部 10d を木摺下地パネル 32a 等に紐 21 等の取付手段 20 で留め付け、これによって、当該外壁 30 等に留め付けられた上端縁部 10d と前記張り込みシート部 10a との間に生じたシートのたわみ部分を、例えば、上側シート部 12a における下縁端 12a' と側端縁 10f' との交差する隅部を側方に引き出すようにして、余分なシート部分を外壁 30 方向、又は、屋外方向のいずれかに折入れるようになすと共に、前記隅部を下方に引き絞るようにして、この折入れたシート部分を押さえつけるように、当該隅部をバルコニー B、外壁 30 等に留め付けて、養生シート C における両側部 Ca、C

【0068】

なお、前記養生シート C における下端縁部 10e は、これをバルコニー B の底面側に、例えば、ヒートン等をねじ入れ用意して、これに留め付けるようにしてあってもよいが、例えば、この一連に連続される下端縁部 10e を、前記取付手段 20 の紐 21 等を用いて絞り込むようにして、バルコニー B の底面側に引っ掛けて、当該養生シート C を張設するようにしてあってもよい。かかる養生シート C の張設にあっては、一つの取付手段 20 を構成する紐 21 に備えられているなす環 22a を、側方に備えられている他の取付手段 20 の紐 21 に引っ掛け、このなす環 22a の引っ掛けられた紐 21 を更に側方に備えられている他の取付手段 20 を構成する紐 21 に引っ掛けるように、順次に連結し、各紐 21 を各コードロック 23 を用いて引き絞ることによって、当該養生シート C における下端縁部 10e をバルコニー B の底面側において、当該底面の内側に位置づけるように絞り込んでバルコニー B に引っ掛けてあってもよい。

【0069】

このように構成される養生シート C にあっては、バルコニー B に対して養生シート C が密着状態に備え付けることができ、内部に作業性のよい空間を構成し得るとともに、雨水等の吹き込みを避けることができ、バルコニー B における防水層 60、例えば、前記断熱パネル 42、ボード材 32c、54 等を乾燥状態に維持しながら、これらの上に FRP 防水層 60' 等の防水層を確実に安全に設けることができ、また、これらの防水層 60 としての FRP 防水層 60' 等を雨水等から効果的に保護することができる。

【0070】

また、バルコニー B における養生が不要になった際には、前記コードロック 23 による紐 21 の絞り込みを緩め、かつ、なす環 22a を各紐 21 から解放して建築物 A から取り外し、スライドファスナー 14 を上止 14b 位置まで閉めることによって、取り外し養生シート C を、一枚の矩形シート 10 として、これを折り畳んだり、丸め込む等適宜の方法で梱包することができ、回収、搬送、保管を容易になすことができる。

【0071】

かかるバルコニー B の防水施工後、当該手すり用起立部 50 に化粧パネル等の化粧材の備え付け、笠木の備え付け、手すりバーの備え付け等、各種必要処理を施してバルコニー手すりとして完成する。また、当該バルコニー B に連続されている外壁 30 の仕上げ処理

10

20

30

40

50

を施す。

【 0 0 7 2 】

ついで、図 1 0 に示されるバルコニー B に対する前記養生シート C の適用例について説明する。

【 0 0 7 3 】

この図示例に係るバルコニー B は、前記図 2 ～図 9 に示されるバルコニー B のなす矩形平面に対して、その横幅、すなわち、外壁面 3 0 a に沿った向きの幅を 2 倍にした長方形平面をなすバルコニー B としてあって、前記養生シート C における側部シート部 1 2 を折返すことなく、当該バルコニー B を覆うように建築物 A に張設けるようにしてある。すなわち、ここで養生シート C で養生対象とされるバルコニー B は、建築物 A の外壁面 3 0 a から直角に突き出すバルコニー B の突き出し幅に対して、当該外壁面 3 0 a に平行な向きの幅が 4 倍の幅寸法をなすように構成してある。

10

【 0 0 7 4 】

すなわち、この図示例に係るバルコニー B を覆って備えられる養生シート C は、前記図 1 に示される養生シート C におけるスライドファスナー 1 4 を、上止 1 4 b か下止 1 4 a に向けて、ほぼ半分ほど開きだした状態で用意し、この養生シート C におけるベースシート部 1 1 と、開き出されたスライドファスナー 1 4 によって分離された下側シート部 1 2 b を除く他の下側シート部 1 2 b とをバルコニー B における手すり用起立部 5 0 a に、かつ、このスライドファスナー 1 4 で開き出された下側シート部 1 2 b を手すり用起立部 5 0 b に、それぞれ緩み無く添装して、これを前記図 2 ～図 9 に示される養生シート C の張り込みと同一の手法で、バルコニー B を覆うように建築物 A に対して取り付けて、バルコニー B の養生をなす。

20

【 0 0 7 5 】

ついで、図 1 1 及び図 1 2 に示されるバルコニー B に対して前記養生シート C の適用例を説明する。

【 0 0 7 6 】

この図 1 1 及び図 1 2 に示されるバルコニー B は、建築物 A における出隅に沿って備えられるバルコニー B であって、一対の長方形の一辺側をはすに接続して、直角に屈曲した一連に連続するバルコニー B として構成してあり、矩形シート 1 0 の取り付けに際して、建築物 A の出隅部分において養生シート C の上端縁部 1 0 d 側を適宜絞り込むことによって、前記養生シート C の取り付けと同様に、当該養生シート C をバルコニー B に張り込み用いることができる。

30

【 0 0 7 7 】

この図示例にあっては、バルコニー B に備えられる手すり用起立部 5 0 が、当該バルコニー B の両側部において外壁 3 0 から当該壁面 3 0 a に直交する向きに突き出されている手すり用起立部 5 0 b、5 0 b と、この各手すり用起立部 5 0 b、5 0 b 間にわたって備えられる手すり用起立部 5 0 a とを備えており、このバルコニー B の前端縁に沿って備えられている手すり用起立部 5 0 a が、外壁面 3 0 a に平行とされており、しかも、この外壁面 3 0 a に向き合っている手すり用起立部 5 0 a ' と手すり用起立部 5 0 a ' との間にあって、外壁面 3 0 a に向き合わずに前記手すり用起立部 5 0 b に向き合っている手すり用起立部 5 0 a " とで構成してあり、この一連に連続されている手すり用起立部 5 0 a の横幅を、前記手すり用起立部 5 0 b における出幅のほぼ 4 倍に構成してある。

40

【 0 0 7 8 】

かかる構成のバルコニー B に対して、前記図 1 に示される養生シート C を、その両側部 C a、C a にあるスライドファスナー 1 4、1 4 を、それぞれ二分の一相当分開き出して、このスライドファスナー 1 4 で開き出された下側シート部 1 2 b を前記手すり用起立部 5 0 b に添装するようになし、かつ、当該養生シート C における下側ベースシート部 1 1 b 及びスライドファスナー 1 4 で上側シート部 1 2 a と接続されている下側シート部 1 2 b とを手すり用起立部 5 0 a に添装するようになし、前記図 2 ～図 1 0 で示された養生シート C の張り込みと同様の方法で当該養生シート C をバルコニー B を覆うように建築物 A

50

に張り込むことによって、当該養生シートを緩み無く当該バルコニー B に備え付けることができる。

【 0 0 7 9 】

この図示例に係るバルコニー B に備えられる養生シート C は、両側部 C a、C a に側部シート 1 2 を備える矩形シート 1 0 であって、ベースシート部 1 1 が、上側ベースシート部 1 1 a と、下側ベースシート部 1 1 b とを備えており、この下側ベースシート部 1 1 b が前記手すり用起立部 5 0 a の外側面を覆う形状、寸法を備えるものとしてある。また、この矩形シート 1 0 における上端縁部 1 0 d における両側部分であって、前記手すり用起立部 5 0 a ' に向き合う部分が建築物 A の外壁 3 0 の側に取り付けられており、この外壁 3 0 側に取り付けられている上端縁部 1 0 d、1 0 d 間にある当該矩形シート 1 0 における上端縁部 1 0 d 部分が外壁 3 0 側に取り付けられることなく、折り畳み、寄せ集め等適宜の手法でまとめられて建築物 A における出隅部分に取り付けられるようにしてある。

10

【 0 0 8 0 】

かかる矩形シート 1 0 における上端縁部 1 0 d のまとめつけは、例えば、前記バルコニー B の底面側に廻した下端縁部 1 0 e の絞り込みと同様に、矩形シート 1 0 のほぼ中央に位置する取付手段 2 0 に対して、側方に位置づけられている各取付手段 2 0 における紐 2 1 を前記と同様にループ状にし、このループ状とされる各取付手段 2 0 における紐 2 1 に対して、側方に位置する取付手段 2 0 の紐 2 1 にあるなす環 2 2 a を引っ掛け、このなす環 2 2 a を備える紐 2 1 に、更に側方にある取付手段 2 0 の紐 2 1 にあるなす環 2 2 a を引っ掛けるように順次に連結し、かつ、これらの紐 2 1 をコードロック 2 3 を用いて絞り込み、当該出隅部分にある矩形シート 1 0 における上端縁部 1 0 d を、この建築物 A における出隅部分に引き付け、絞り込むようにして、当該矩形シート 1 0 を、L 字状平面をなすバルコニー B に対して装着してもよく、また、図示例のように、外壁面 3 0 a に向き合っている手すり用起立部 5 0 a '、5 0 a ' に対応する当該養生シート C における上端縁部 1 0 d を外壁 3 0 の側に取り付けて養生シート C を図 1 1 のように張り込み、建築物 A の出隅部分において前方に撓み出すシート部分 1 0 d の上側の先端部分を取付手段 2 0 を用いて外壁 3 0 の側に締め込むようにして養生シート C の張り込みをなすようにしてあってもよい。

20

【 0 0 8 1 】

かかる状態で、両側部 C a、C a にある側部シート部 1 2 をスライドファスナー 1 4 を操作することによって、上側シート部 1 2 a と、下側シート部 1 2 b とに分離し、前記図 2 ~ 図 1 0 に示される養生シート C の張り込みと同一の手法でバルコニー B を覆うように建築物 A に備え付け用いることができる。

30

【 0 0 8 2 】

ついで、図 1 3 に示される他の典型的な養生シート C について説明する。

この図示例に係る養生シート C は、前記図 1 に示される養生シート C を複数枚連続させて一枚の養生シート C として用いる態様を示したものであって、この養生シート C を構成する各矩形シート 1 0、この図示例にあっては、第一矩形シート 1 0 ' と第二矩形シート 1 0 '' とは、いずれも図 1 に示されている矩形シート 1 0 に対して、各矩形シート 1 0 相互を接続し、又は、離脱するためのスライドファスナー 1 6、1 7 を設けた以外の構成を前記図 1 に示した矩形シート 1 0 の構成と同一の構成の矩形シート 1 0 '、1 0 '' としてあり、同一の方法で用いられる。

40

【 0 0 8 3 】

この第一の矩形シート 1 0 ' と第二の矩形シート 1 0 '' との分離可能な接続手段は、互いに接続される上側シート部 1 2 a、1 2 a に備えられるスライドファスナー 1 6 と、互いに接続される下側シート部 1 2 b、1 2 b に備えられるスライドファスナー 1 7 とで構成してある。

【 0 0 8 4 】

この第一の矩形シート 1 0 ' と第二の矩形シート 1 0 '' とを、互いに接続、又は、分離するスライドファスナー 1 6 は、この第一の矩形シート 1 0 ' の上側シート部 1 2 a と、

50

第二の矩形シート１０"の上側シート部１２aとの互いに向きあう側端縁１０f'、１０f'に、互いに噛み合うエレメントを備える対をなすテープ１６a、１６bを備え付けることによって構成してある。

また、第一の矩形シート１０'と第二の矩形シート１０"とを、互いに接続、又は、分離するスライドファスナー１７は、この第一の矩形シート１０'の下側シート１２bと、第二の矩形シート１０"の下側シート１２bとの、互いに向きあう側端縁１０f'、１０f'に互いに噛み合うエレメントを備える対をなすテープ１７a、１７bを備え付けることによって構成してある。

【００８５】

かかる第一の矩形シート１０'と第二の矩形シート１０"とを接続、分離するスライドファスナー１６とスライドファスナー１７は、養生シートＣを、より容易に、かつ、簡易に構成するために、各矩形シート１０における両側部Ｃa、Ｃaにある各上側シート部１２aの側端縁１０f'、１０f'に、互いに噛み合うエレメントを備えるテープ１６a、１６bを左右に同一の順序に備え付け、また、各矩形シート１０における両側部Ｃa、Ｃaにある各下側シート部１２bの側端縁１０f'、１０f'に、互いに噛み合うエレメントを備えるテープ１７a、１７bを左右に同一の順序に備え付けることによって、複数の矩形シート１０、１０...を順次に必要枚数、接続し、また、必要に応じて分離して用いることができる。なお、これらの各スライドファスナー１６、１７の歯合部分を外側から覆うカバー１６c、１７cを備えるように、前記矩形シート１０の一方側にある上側シート部１２aと下側シート部１２bの各側端縁１０f'に該カバー１６c、１７cを備え付けた構成としてある。

【００８６】

このように複数枚の矩形シート１０を、必要に応じて接続して用い、また、必要に応じて分離して用い得る構成とすることによって、複数の大きさの異なる矩形シートを前もって用意する不具合をなくし、かつ、各大きさのバルコニーＢに対して、前記図２～図１２における養生シートＣと同一の手法で当該バルコニーＢを覆うように養生シートＣを備え付け用いることができる。

【図面の簡単な説明】

【００８７】

【図１】典型的な養生シートの展開正面図

【図２】同使用状態を示す要部縦断面図

【図３】同要部平断面図

【図４】同装着の一過程を示す斜視図

【図５】同装着の他の一過程を示す斜視図

【図６】同装着の更に他の一過程を示す斜視図

【図７】同取り付け要部の正面図

【図８】同シートの縦断面図

【図９】同シートの他の取り付け例を示す要部正面図

【図１０】他のバルコニーに用いた状態の平断面図

【図１１】更に他のバルコニーに用いた状態の斜視図

【図１２】同平断面図

【図１３】他の典型的な養生シートの要部を示す正面図

【符号の説明】

【００８８】

Ｂ バルコニー

Ｃ 養生シート

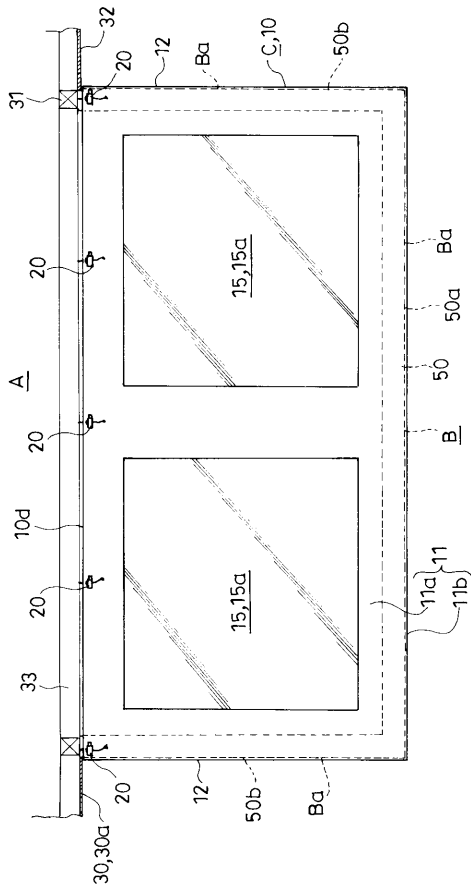
１２a 上側シート部

１２b 下側シート部

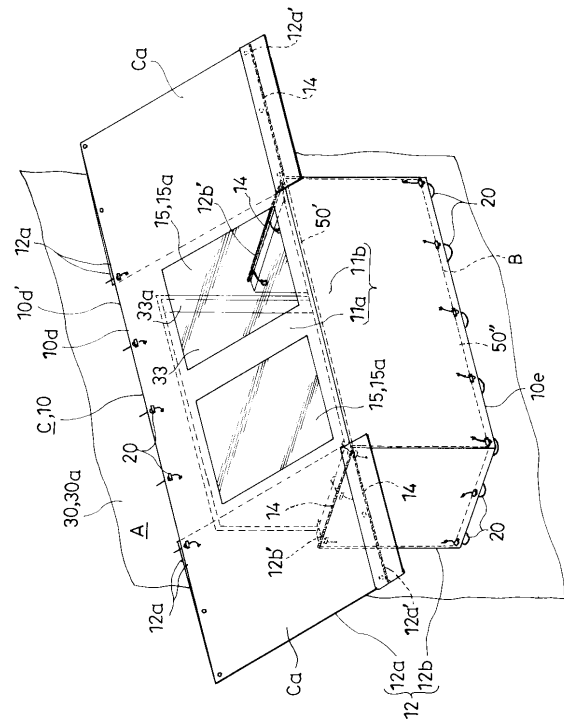
１４ スライドファスナー

３０ 外壁

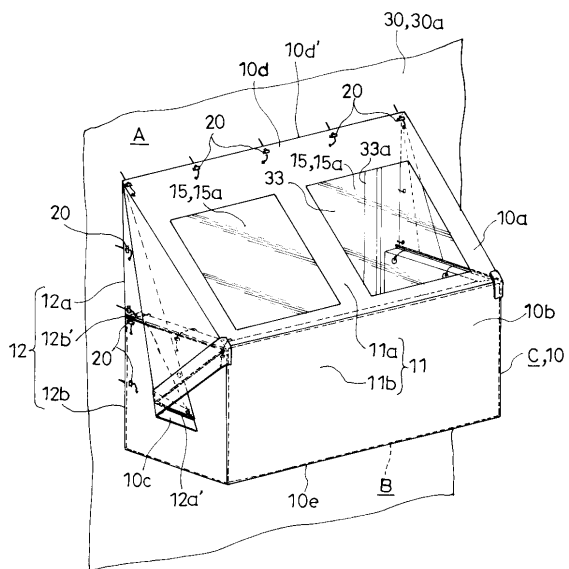
【図 3】



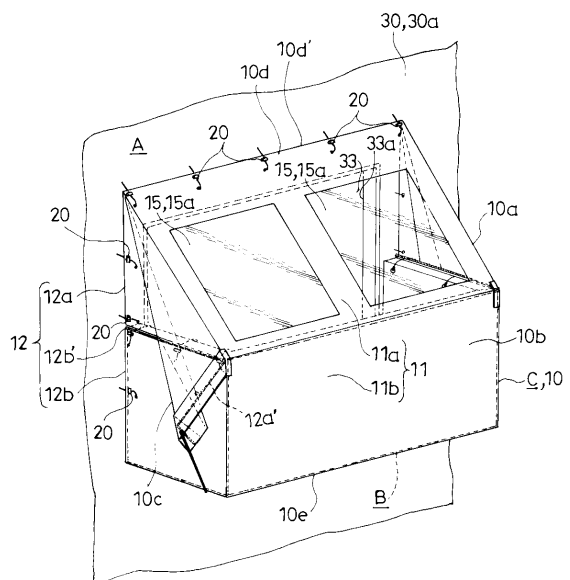
【図 4】



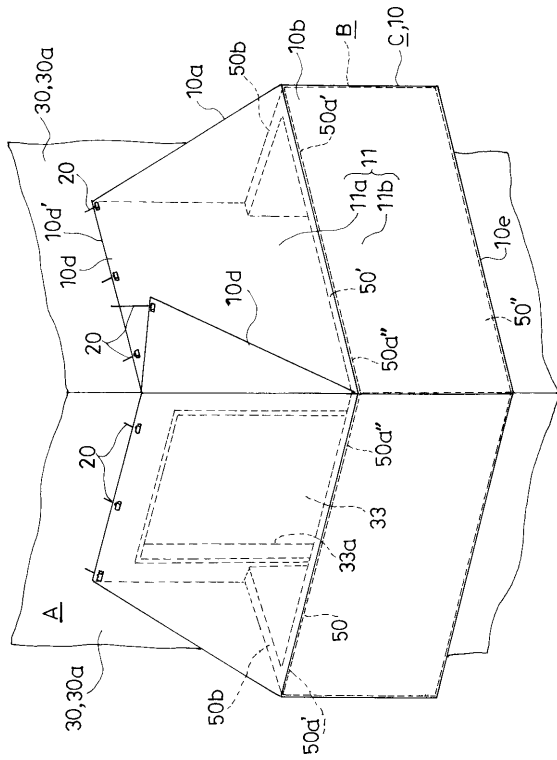
【図 5】



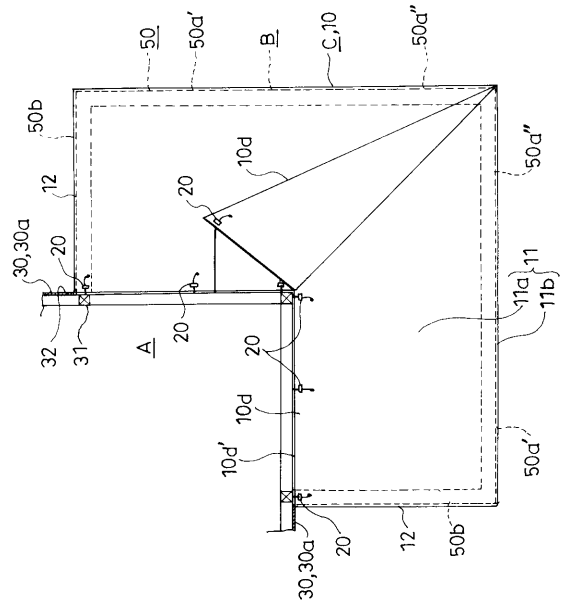
【図 6】



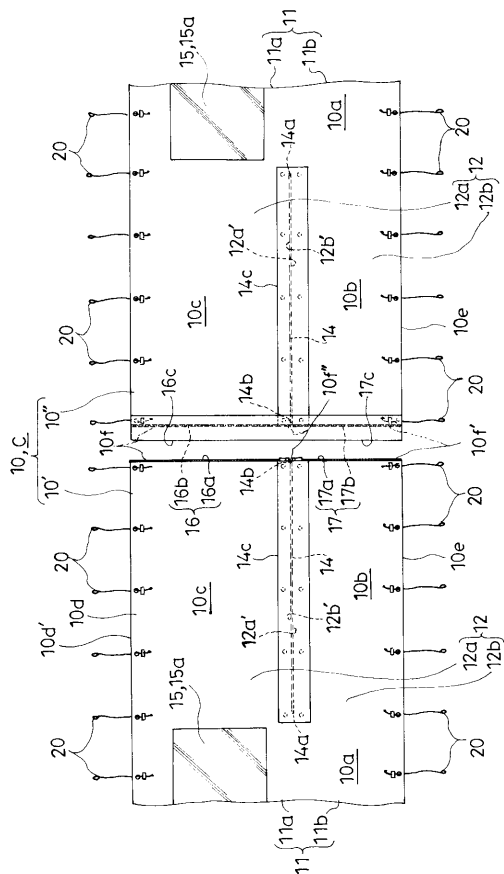
【図 1 1】



【図 1 2】



【図 1 3】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開 2 0 0 2 - 2 0 6 3 4 6 (J P , A)
実用新案登録第 2 5 6 7 4 9 7 (J P , Y 2)
特開 2 0 0 4 - 3 0 0 8 5 0 (J P , A)

(58)調査した分野(Int.Cl. , D B 名)
E 0 4 G 2 1 / 2 8